

実践報告 言語活動を取り入れた授業づくり

# 文学作品を読んで、朗読劇の台本を作ろう (現代文)

実践報告者 長崎県立川棚高等学校 教諭 長瀬貴之

## 1 科目名・単元名

- ・科目名 現代文（2年生）
- ・単元名 文学作品を読んで、朗読劇の台本を作ろう。
- ・説明 文学作品を読んで、登場人物の心理描写を的確にとらえるとともに、その読みを他者と交流することを目標に、朗読のための台本を作成する。

## 2 単元の目標

- ・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わおうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わっている。 (読む能力) ((1)のウ)
- ・語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。 (知識・理解) ((1)のオ)

## 3 取り上げる言語活動と教材

- ・言語活動 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。  
(「C読むこと」の(2)のア)
- ・教材 「こころ」夏目漱石 (「新版現代文」教育出版)

## 4 単元について

作品に表現された登場人物の感情を的確に読み取る。その読みを、朗読劇の台本という形でまとめることで、自他の読みの交換を行う。

小説教材の語句や表現に込められた登場人物の心情を読み取る工夫を知り、他者の読みと交換することで多様な読み方に気付く。表現に根拠を求めつつ心情を読み取ることで、小説教材への主体的な取り組み方を身に付けさせたいと考え、2年2学期に実施することとした。

## 5 単元の具体的な評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めようとしている。	・文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	・語句の構造的な仕組みについて理解している。
・文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況をとらえる手掛かりとしようとしている。	・文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況をとらえる手掛かりとしている。	

## 6 単元の指導と評価計画

次	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	具体的な評価規準と評価方法	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>全文を黙読し、大まかに内容をとらえる</li> <li>作者や成立背景など、作品に関する知識を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字、語句などに傍線を付けさせる。</li> <li>登場人物の心情の変化を重点的に意識させ、その根拠となる表現に傍線を付けさせる。</li> </ul>	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>語句の構造的な仕組みについて理解している。(知識・理解)</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <p>「行動の観察」</p>	1時間
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>根拠となる本文中の表現を明確にして、各場面の展開を確かめ、物語構成を把握する。</li> <li>毎時終了前に、次時で扱う範囲を指導者の朗読とともに読む。</li> <li>場面ごとに、心情の変化を視点として「事前読解プリント」を記入する。</li> <li>次時のはじめに、前時で記した「事前読解プリント」を隣席と交換する。感想の共有、相互評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「私」の心情の推移を中心に、比喩などの表現に即して理解させる。</li> <li>指導者が間の取り方、緩急、強弱などを意識して朗読し、朗読の手法へのイメージをつかませる。</li> <li>「事前読解プリント」について、文章表現に根拠を求めているか、伝わりやすい表現を工夫しているかなどの評価をする。</li> <li>表現上特に優れたものを数人に発表させ、読解の指針とさせたり、表現の工夫の一助とさせたりする。</li> </ul>	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。(読む能力)</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <p>「記述の確認」</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。(関心・意欲・態度)</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <p>「行動の観察」</p>	9時間
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各段で整理した登場人物の心情の推移を踏まえ、朗読劇台本を作成する。</li> <li>実際に読み合わせてみて、意図が伝わる朗読になっているか、指摘し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最も印象に残った場面を選ばせ、心情の推移を確認させる。</li> <li>読み取った心情の推移を適切に表現できるように、注釈や指示を付け加える。</li> <li>人物のイメージを具体的に想起させるための表現の工夫を考えさせる。</li> </ul>	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章を異なる立場から読み深めている。(読む能力)</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <p>「記述の確認」</p>	3時間

## 7 第3次（2時間目）の学習の展開例

### （1）学習指導案

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
導入	前回準備した朗読台本シートを確認し、本時の学習活動の流れを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「注釈」欄に、これまでの読解を活かした音読上の注意を入れるように指示する。</li> <li>・完成した朗読台本をもとに、隣席同士で披露し合うことを知らせる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「本文」に、間を空ける個所を示す記号を加える。</li> <li>○「本文」に、特に注意して表現したい個所を示す波線を加える。</li> <li>○「注釈」に、声の強弱、スピードの緩急を具体的に指示する表現を加える。また、読解段階で解釈した登場人物の心情などを表現するための具体的な指示を加える。</li> <li>○隣席同士ペアになり、まず一人がシートの指示に従って朗読する。</li> <li>○聞いていたものは、朗読が終わったら感想を伝える。</li> <li>○役割を交替して、朗読し、感想を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに読解した内容を、効果的に表現できるよう、ト書きを工夫させる。</li> <li>・心情表現の推移を、朗読の方法を工夫することで表現させる。 『朗読する際の声の強弱、スピードの緩急や間を空ける個所を工夫して、登場人物の心情の移り変わりを表現してみよう』</li> <li>・心情描写に留意した朗読を行わせる。 『完成した台本を使い朗読を下さい』</li> <li>・評価の観点に従って、評価させる。 『聞く方は、登場人物の心情を想像しながら聞くこと。読む者の意図が伝わるかを後で評価下さい』</li> <li>・特徴的な台本を完成させたものを数名選び、朗読させる。</li> </ul>
まとめ	○相手の評価を参考にして、自作の台本を再度検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己への評価を検討し、改めて自身の台本を工夫して、表現の質を上げさせる。 『ペアの意見を参考にして、付け加えたり別の工夫をしたりするところがないか考え下さい』</li> </ul>

### （2）言語活動と「読むこと」の力の向上を結びつける工夫について

授業計画第2次の読解の場面ではワークシートを用いて、読みの交換を行う。登場人物の感情の推移を、表現に依拠して読み取る。その後、ワークシートの相互評価を通して、他人の意見との相違を開き合うことで確認する。記述内容は事前に確認して、発問構成に反映することで、生徒の積極的な発言を引き出す。

また、第3次の朗読劇の台本作成の場面では、自らの読み取った心情をもう一度表現に即して客観的に評価する機会とする。ト書きや注釈などを付けたり、朗読の高低や遅速を工夫したりすることで、改めて登場人物に関する読み方の確認ができるのではないかと。さらに、台本を互いに聞き合うことで、相互に読みの交換をし、刺激し合うことができる。

### (3) 「言語活動」を取り入れた授業の成果と課題

小説教材において、発問と板書を中心に文章を読解するだけで終わることなく、文章中の表現に根拠を求め、それを自らの表現の素材として再構成することを目標とした。そのために各場面での読解においても、登場人物の心情が大きく動く場面を中心に持ち上げ、そのうえで他者の読み方を知り、自らの読み方へフィードバックできるようにワークシートを工夫した。さらに、小説の読解で生徒の学習活動が終わることのないよう、各場面で積み上げた自分自身の解釈を活かし、朗読のための台本として再構成するという柱を準備した。自らの読み取った登場人物の心情の推移を、音声の高低や遅速、リズムの緩急などの工夫により表現させようとするものである。生徒は、通常の授業時よりもさらに丁寧に、たとえば「なぜ彼はこのような言動をとることになったか」といった点に文章上の根拠を求め、自ら表現のための注釈を考える作業を通して、読解の再確認ができるとともに、他者の読み方に気付く機会を得ることができた。

一方で、全体の学習計画が肥大し、単元全体にかかる時間が大きくなったことが課題である。小説教材として、「こころ」は完成されたものである以上、読解すべきポイントの取捨選択が困難であった。読解の活動と言語活動のバランスについては、今後改めて考えたい。また、生徒の相互評価の場面を多く取り入れたが、朗読という表現活動についての評価は、生徒にとっても慣れておらず、困難さを感じていた。相互評価をさらに次の活動に有効に生かしていくための工夫を考えたい。

### (4) 生徒の感想

- 他人の感想を読むことで次回自分が書くときの参考になった。
- 他人の意見を知ることで、別の視点から物語が読めたような気がした。
- 隣の人の意見を聞いて、見逃していた心情を読みとれる表現に気付くことができた。
- 同じセリフなのに違ふとらえ方をしている人がいて、驚いた。
- 段落ごとに感想を書いたことで、その場面の内容がとらえられた。自分が思ったことを文章にすることは、読むときに大切だと思った。
- 「書くこと」と「読むこと」が同時に練習でき、自分なりに工夫できてよかった。
- どの段落を朗読の対象にするか、選ぶ作業が楽しかった。
- どのように読めば相手に伝わりやすいか、少しわかるようになった。
- 声の強弱など表現の仕方を考えていくうちに、前に読んだときとは違う印象も増えた。
  
- 同じような意見しか出なかった。
- 初めてこのようなことをしたので、やり方がつかめなくて難しかった。
- ワークシートの作り方に余裕がなく、書き込むスペースが欲しかった。
- 自分で朗読を演出するのは難しく、手が動かなかった。
- もっと深く読んでほしいところをあっさり進まれたり、ワークシートで答えが誘導してあるように感じたところが多かった。

【参考】第2次（7時間目）の学習の展開例  
学習指導案

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
導入	前時に書いておいた、第7段の事前読解プリントをもとに、相互評価した後、意見交換する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入内容をもとに、自己と他者の読み方の異同について認識させる。</li> <li>・新たな見方に気付いた場合は、赤ペンで記入させておく。</li> <li>・数名を指名して、発表させる。</li> </ul>
展開	<p>前時の内容の確認</p> <p>○「この二つのもの」という表現について確認する。</p> <p>○「私」の罪の意識を、表現に即して確認する。</p> <p>○「私」の葛藤について、表現に即して確認する。</p> <p>○「私」の心中について、表現に即して確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前読解プリントの記述をあらかじめ確認しておき、発問に反映させる。</li> <li>・表現に即して、登場人物の心情の推移を読み取らせる。 問『二つのものとは、何のことか』 『どうして私は長い散歩をしたのか』 答『気恥ずかしさでじっとしてられないから』</li> <li>・「Kに対する私の良心」の注意を向けさせる。私の卑怯さだけに焦点を合わせないようにさせる。 問『不思議に思うのは、なぜか』 答『冷静になれば、Kに対して申し訳ないと考えるのが、私という人間だから』</li> <li>・「私の自然」がなぜ食い止められたか、私の内面に意識を向けさせる。 問『私の自然とはどのようなことか』 答『その場でKに謝罪したいという思い』 問『なぜ、謝罪しなかったか』 答『人がいたから。自分の恥ずかしい点を他人に知られたくなかったから』</li> <li>・「なんにも知らない」という表現の対比、「鉛のような飯」という比喩に着目させる。 問『なんにも知らないとは、何を知らないということか』 答『K：私の求婚 奥：私のうそ』 問『「鉛のような」から、私のどんな気持ちが分かるか』 答『罪悪感といたたまれなさ』</li> </ul>
まとめ	○次時の段落の朗読を聞き、事前読解プリントに記入する。	・次時の範囲を読み、登場人物の心情に着目して、事前読解プリントに記入させる。

## 「言語活動」を取り入れた本実践の工夫とポイント

### 1 「文章を読み深める」ための朗読

朗読は、音読、暗唱とともに、学習指導要領において「文章を読み深める」、「文章の調子などを読み味わう」といった二つの視点からの言語活動として扱われています。また、朗読は「文章の思想や感情を十分に理解した上で、聞く人がよりよく理解できるよう表現性を高めて読むこと」（学習指導要領解説「国語総合」）と示されており、本単元の「文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わっている」という目標を実現するための効果的な手段であると言えます。

### 2 「朗読劇の台本を作る」という工夫

本実践では、本文がプリントされたワークシートに「声の強弱」「スピードの緩急」「登場人物の心情」等を線や記号、言葉で書き込みながら「朗読劇の台本を作る」という言語活動を通して朗読の質を高め、本文の読みを深めようとする点に工夫があります。「こころ」で描き出される登場人物の心情を台詞に込めて表現することは容易ではありません。表現を推敲して台詞化するには、場面や状況、登場人物の立場や関係性等を踏まえた的確な心情の理解をもとに、生徒自身の経験や想像力を総動員して劇中人物を演じる必要があります。その表現活動の聞き手に対する説得力が、本文の読みの深度を表すことになると言えるでしょう。

### 3 「伝え合う場」をどう設定したか

ペアで読み合う場を段階ごとに設定し、そこで評価の観点に従って相互評価を行い、台本や朗読の改善を図る点に工夫があります。特に聞く側が観点をもとに他者の表現を評価する活動は、聞き手の主体性や傾聴の態度を育てるとともに、話し手の意欲や積極性を支えることにもつながります。

### 4 本実践の意義と活用の留意点

本実践の成果は、長瀬教諭のまとめにある「自らの表現のための注釈を考える作業を通して読解の再確認ができるとともに、他者の読み方に気付く機会を得ることができた」という点にあります。生徒の感想にも「隣の人の意見を聞いて、見逃していた心情を読み取れる表現に気付くことができた」「どのように読めば相手に伝わりやすいか、少しわかるようになった」といったものが見られました。生徒相互の主体的な学び合いや他者の視点にもとづく自己表現の省察等が、読みを深めることと結び付いていることに、本実践の意義が感じられます。

本実践を活用する際の留意点としては、

①読解の活動と言語活動のバランスを単元全体の中で効率的に計画すること

②生徒による朗読の相互評価の観点の妥当性を高めること

が挙げられます。本実践の手法や視点は、朗読のみならず、日常的な音読や暗唱にも活用が可能であり、またペアのみならず、グループや全体での共有の在り方についても示唆的だと言えます。